

## 初期研修目標

### I 研修理念及び目標

臨床研修により医師としての人格を涵養するとともに、医学及び医療の社会的役割を認識し、一般診療に頻繁に関わる疾病に適切に対応できるよう基本的な診療能力を身に着けることを目標とする。

### II 行動目標

将来の専門性のいかにかわらず、全ての医療人に期待される目標となる

医療人として必要な基本的姿勢、態度および知識

#### (1) 臨床現場における好ましい人間関係の形成

患者-医師関係：患者を全人的に把握、理解し患者・家族と良好な人間関係を築くために

- 1) 患者、家族を医学的、心理、社会的側面より把握することができる。
- 2) 患者、家族にたいし適切な医療を行えるようにインフォームドコンセントを実施し、十分な指示、指導を行えることができる。
- 3) 守秘義務を果たし、プライバシーへの配慮が出来る。

チーム医療の実践：チーム医療の構成員としての役割を理解し、医師、看護師、保健、医療、福祉職員などと協調して医療にあたることができるために

- 1) 上級医師（指導医、専門医）への適切なコンサルテーションができる。
- 2) 上級医師、同僚医師、パラメディカルと適切なコミュニケーションがとれる。
- 3) 同僚、後輩への教育的配慮ができる。
- 4) 他の職種の職員及び病院外の医療担当者とも綿密なコミュニケーションをとり連携がはかれる。

#### (2) 問題対応能力

患者の病状の問題点を把握し、問題対応型の思考を行い、自己学習の習慣を身につけるために

患者に関する医学的情報を十分に収集し EBM に基づいた診療を行うことができる。

診療科ガイドライン、クリニカルパスを理解し活用できる。

臨床研究、治験の意義を理解し研究、学会活動をおこなうことができる。

第三者の評価を生かし、自己管理能力を身に付け診療能力の研鑽に努めることができる。

### ( 3 ) 安全管理

安全管理の方策を身に付け、危機管理に参画し、患者及び医療従事者にとって安全な医療を遂行するために

安全確認の考え方を理解し実施することができる。

医療事故防止及び事故後の対処につきマニュアルに沿って行動できる。

院内感染対策（standard precaution を含む）を理解し実施できる。

### ( 4 ) 医療の社会性についての理解と実践

医療の持つ社会的側面を考慮し、医療の制度を理解し社会に貢献するために

保健医療法規、制度の理解とそれに基づく行動ができる。

保険医療、公費負担医療の理解とそれに基づく診療ができる。

医療倫理、生命倫理を理解しそれに基づき行動ができる。

医薬品、医療器具による健康被害の発生防止について理解し適切に行動できる。

### ( 5 ) 医療面接

患者・家族との信頼関係を構築し、診断・治療に必要な適切な情報を得られるような医療面接を可能とするために

患者・家族・医療関係職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、適切なコミュニケーションスキルにより患者の病態、受診動機、受領行動を把握できる。

患者の病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、生活・職業歴、系統的レビュー）の聴取と記録ができる。

インフォームドコンセントに基づき患者・家族へ適切な指示、指導ができる。

### ( 6 ) 診療計画

保健・医療・福祉の各側面に配慮しつつ、診療計画を作成し、評価するために

診療計画（診断、治療、患者・家族への説明）を作成できる。

診療ガイドライン・クリニカルパスを理解し活用できる。

入退院の適応を判断できる（デイサージャリー症例を含む）。

QOL を考慮にいれた総合的なケア計画（リハビリテーション、社会復帰、在宅医療、介護を含む）へ参画できる。

### ( 7 ) 症例の呈示

チーム医療の実践、自己の臨床能力の向上を目的に

症例を呈示し討論が行える。

臨床症例に関するカンファランス、学術集会に積極的に参加する。

### III 経験目標

部分的に専門科目の研修目標と重なっているが、専門性のいかんに関わらず一般診療に必要とされる目標である。

#### A 経験すべき診察法・検査法・手技

##### (1) 基本的身体診察法

病態の正確な把握ができるよう身体診察を全体的に系統的に実施し、的確に記載するために

全身の診察（バイタルサイン、意識状態、精神状態）ができ、記載できる。

体表の診察（皮膚、リンパ節、体表の血管、乳房）ができ、記載できる。

頭頸部の診察（眼球、眼底、外耳道、咽頭、鼻腔口腔、甲状腺）ができ、記載できる。

胸部の診察（呼吸音、心音）ができ、記載できる。

腹部の診察（肝臓、脾臓、腎臓、腹膜、腸雑音、腹部動脈、直腸診）ができ、記載できる

泌尿器、生殖器の診察ができ、記載できる。

骨・神経・筋肉の診察ができ、記載できる。

神経学的診察ができ、記載できる。

小児の診察ができ、記載できる。

精神科的診察ができ、記載できる。

必修項目：全項目が必修項目となる。

( 2 ) 基本的臨床検査

病態と臨床経過を把握し、医療面接と身体診察から得られた情報をもとに必要な検査を施行するために

( A ) 項目については自ら計画実施し、結果を解釈できる

( A 以外の項目 ) 検査の適応が判断でき、結果を解釈できる

一般尿検査 ( 尿沈渣顕微鏡観察を含む )

便検査 ( 潜血、虫卵 )

血算、白血球分画

血液型判定・交差適合試験 ( A )

動脈血液ガス分析 ( A )

血液生化学検査・簡易検査 ( 血糖、電解質、尿素窒素など )

血液免疫血清学的検査 ( 免疫細胞検査、アレルギー検査を含む )

細菌学的検査・薬剤感受性検査

検体採取 ( 痰、尿、血液など )、簡単な細菌学的検査 ( グラム染色など )

髄液検査

細胞診・病理学的検査

心電図 ( 1 2 誘導 ) ( A ) 負荷心電図

単純 X 線検査

超音波検査 ( 腹部、心臓 ) ( A )

肺機能検査 ( スパイロメトリー )

X 線 CT 検査

MRI 検査

造影 X 線検査

内視鏡検査

核医学的検査

神経生理学的検査 ( 脳波、筋電図 )

< 必修項目 > 下線の項目については受け持ち患者の検査として診療に活用すること

( A ) の検査で自ら実施する部分については受け持ち症例でなくてもよい

### (3) 基本的手技

基本的手技の適応を決定し実施するために

<必修項目> 下線の手技については自ら実施した経験があること

気道確保を実施できる

人工呼吸を実施できる（バッグマスクによる徒手換気を含む）

心マッサージを実施できる

圧迫止血法を実施できる

採血法（静脈採血、動脈採血）を実施できる

注射法（皮下、皮内、筋肉注射、静脈確保、点滴、中心静脈確保）を実施できる

穿刺法（胸腔、腹腔）を実施できる

穿刺法（腰椎穿刺）を実施できる

導尿法を実施できる

胃管の挿入と管理ができる

ドレーン・チューブ類の管理ができる

局所麻酔法を実施できる

創部消毒とガーゼ交換を実施できる

簡単な切開・排膿を実施できる

皮膚縫合法を実施できる

包帯法を実施できる

軽度の外傷・熱傷の処置を実施できる

気管挿管を実施できる

除細動を実施できる

### (4) 基本的治療法

基本的治療法の適応を決定し、適切に実施するために

療養生活（安静度、体位、食事、入浴、排泄、環境整備など）について患者・家族が理解できるように説明ができる

薬物の作用、副作用、相互作用について理解し薬物治療（抗菌薬、副腎皮質ステロイド薬、解熱薬、麻薬、血液製剤を含む）ができる

基本的な輸液ができる

末消からの輸液の処方

中心静脈栄養の処方

輸血（成分輸血を含む）の効果と副作用について理解し実施できる

輸血の手順を熟知

輸血による効果・副作用の理解

GVHDの予防法の理解

( 5 ) 医療記録、書類の発行について

チーム医療や法規との関連で重要な医療記録を適切に作成し管理するために

診療記録等

A、診療記録；POMR ( Problem Oriented Medical Record ) 方式にしたがい正確、簡潔に記載できる

B、退院病歴要約；退院後すみやかに ( 2 週間以内をめど ) に正確、簡潔、に検査項目を含め必要事項をもらさず明記できる

C、病状を的確に説明しインフォームドコンセントを得ることができる

D、手術記録を正確、簡潔に記録する

E、他科依頼書、紹介状は正確、簡潔に記載できる

F、剖検の必要性を認識し、承諾を得る努力をする。剖検記録は簡潔明瞭に記載しレポートを作成し臨床病理検討会 ( CPC ) において症例呈示できる

指示書の記載

医療を安全に行うため、指示は簡潔、明瞭に記載するために

A、投薬に際しては薬剤の投与量、投与回数、投与期間等を正確に記載できる

B、注射薬の投与量、投与速度、投与回数、投与期間を具体的に記載できる

処方箋の発行

A、患者のコンプライアンスを考え処方することができる

B、コンピューター処方をおこなうことができる

診断書,死亡診断書 ( 死体検案書を含む ) その他の証明書を記載、発行公文書であり正確性を記載することができる

< 必修項目 > 1 ) - 6 ) を自ら作成した経験があること

1 ) 診療録の作成

2 ) 処方箋、指示書の作成

3 ) 診断書の作成

4 ) 死亡診断書の作成

5 ) CPC レポートの作成と症例呈示

6 ) 紹介状、返信の作成

## B 経験すべき症状・病態・疾患

症状、身体所見、簡単な検査所見に基づき鑑別診断を行い、初期治療を的確に行う能力を身に着けるために

### 1) 頻度の高い自覚症状の病態生理と鑑別診断を理解できる

- 1 全身倦怠感 2 不眠 3 食欲不振
- 4 体重減少・増加 5 浮腫 6 発熱
- 7 リンパ節腫脹 8 発疹 9 黄疸
- 10 視力障害・視野狭窄 11 結膜充血 12 聴覚障害
- 13 鼻出血 14 嘔声 15 頭痛
- 16 めまい 17 痙攣発作 18 失神
- 19 胸痛 20 動悸 21 呼吸困難
- 22 咳・痰 23 嘔気・嘔吐 24 胸やけ
- 25 嚥下困難 26 腹痛 27 便通異常(下痢,便秘)
- 28 腰痛 29 関節痛 30 歩行障害
- 31 四肢のしびれ 32 血尿 33 排尿障害(失禁、排尿困難)
- 34 尿量異常 35 不安,抑鬱

<必修項目> 下線の症状については経験し、レポートを提出する  
経験とは自ら診療し鑑別診断をおこなうこと

### 2) 経験すべき緊急を要する症状・病態

患者の症状・身体所見・簡単な検査所見に基づいて鑑別診断・初期治療を的確におこなえるようになるために、緊急を要する病状・病態を経験する

心肺停止	ショック	意識障害
脳血管障害	急性呼吸不全	急性心不全
急性冠症候群	急性腹症	急性消化管出血
急性腎不全	流産・早産および満期産	急性感染症
外傷	急性薬物中毒	誤飲、誤嚥
熱傷	精神科領域の救急	

下線の病態を経験すること。(経験)とは初期治療に参加すること

### 3) 経験が求められる疾患・病態

#### (1) 神経系疾患

脳・脊髄血管障害(脳梗塞、脳内出血、くも膜下出血)(A)

痴呆性疾患

脳・脊髄外傷(頭部外傷、急性硬膜外・硬膜下血腫)

変性疾患(パーキンソン病)

脳炎、髄膜炎

#### (2) 精神・神経系疾患

症状精神病

痴呆(血管性痴呆を含む)(A)

アルコール依存症

気分障害(うつ病、躁うつ病を含む)(A)

統合失調症(精神分裂病)(A)

不安障害(パニック症候群)

身体表現性障害、ストレス関連障害(B)

#### (3) 運動器(筋骨格)系疾患

骨折(B)

関節・靭帯の損傷及び障害(B)

骨粗鬆症(B)

脊柱障害(椎間板ヘルニア)(B)

#### (4) 循環器系疾患

心不全(A)

狭心症、心筋梗塞(B)

心筋症

不整脈(頻脈性、徐脈性不整脈)(B)

弁膜症(僧帽弁膜症、大動脈弁膜症)

動脈疾患(動脈硬化症、大動脈瘤)(B)

静脈・リンパ管疾患(深部静脈血栓症、下肢静脈瘤、リンパ浮腫)

高血圧症(本態性、二次性高血圧症)(A)

( 5 ) 呼吸器系疾患

呼吸不全 ( B )

呼吸器感染症 ( 急性上気道炎、気管支炎、肺炎 ) ( A )

閉塞性・拘束性肺疾患 ( 気管支喘息、気管支拡張症 ) ( B )

肺循環障害 ( 肺塞栓、肺梗塞 )

異常呼吸 ( 過換気症候群 )

胸膜、縦隔、横隔膜疾患 ( 胸膜炎、自然気胸 )

肺癌

( 6 ) 消化器系疾患

食道・胃・十二指腸疾患

( 食道静脈瘤、胃癌、消化性潰瘍、胃・十二指腸炎 ) ( A )

小腸・大腸疾患 ( イレウス、急性虫垂炎、痔核・痔ろう ) ( B )

胆嚢・胆管疾患 ( 胆石、胆嚢炎、胆管炎 )

肝疾患 ( ウイルス性肝炎、急性・慢性肝炎、肝硬変、肝癌、

アルコール性肝障害、薬物性肝障害 ) ( B )

膵臓疾患 ( 急性・慢性膵炎 )

横隔膜・腹壁・腹膜 ( 腹膜炎、急性腹症、ヘルニア ) ( B )

( 7 ) 腎・尿路系 ( 体液・電解質バランスを含む ) 疾患

腎不全 ( 急性・慢性、透析 ) ( A )

原発性糸球体疾患 ( 急性・慢性糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群 )

全身性疾患による腎障害 ( 糖尿病性腎症 )

泌尿器科的腎・尿路疾患 ( 尿路結石、尿路感染症 ) ( B )

( 8 ) 血液・造血器・リンパ網内系疾患

貧血 ( 鉄欠乏性貧血、二次性貧血 ) ( B )

白血病

悪性リンパ腫

出血傾向・紫斑病 ( 播種性血管内凝固症候群 : DIC )

( 9 ) 内分泌・栄養・代謝系疾患

糖代謝異常 ( 糖尿病、糖尿病合併症、低血糖 ) ( A )

高脂血症 ( B )

視床下部・下垂体疾患 ( 下垂体機能障害 )

甲状腺疾患 ( 甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症 )

副腎不全

蛋白、核酸代謝異常 ( 高尿酸血症 )

- ( 1 0 ) 免疫・アレルギー疾患
  - 全身性エリトマトーデスとその合併症
  - 慢性関節リュウマチ ( B )
  - アレルギー疾患 ( B )
- ( 1 1 ) 感染症
  - ウイルス感染症 ( インフルエンザ、麻疹、風疹、水痘、ヘルペス、流行性耳下腺炎 ) ( B )
  - 細菌感染症 ( ブドウ球菌、MRSA、A 群連鎖球菌、クラミジア ) ( B )
  - 結核 ( B )
  - 真菌感染症 ( カンジダ症 )
  - 性感染症
  - 寄生虫疾患
- ( 1 2 ) 物理・化学的因子による疾患
  - 中毒 ( アルコール、薬物 )
  - アナフィラキシー
  - 環境要因による疾患 ( 熱中症、寒冷による障害 )
  - 熱傷 ( B )
- ( 1 3 ) 皮膚系疾患
  - 湿疹・皮膚炎群 ( 接触性皮膚炎、アトピー性皮膚炎 ) ( B )
  - 蕁麻疹 ( B )
  - 薬疹
- ( 1 4 ) 眼・視覚系疾患
  - 屈折異常 ( 近視、遠視、乱視 ) ( B )
  - 角膜炎 ( B )
  - 白内障 ( B )
  - 緑内障 ( B )
  - 糖尿病、高血圧、動脈硬化による眼底変化
- ( 1 5 ) 耳鼻・咽喉・口腔系疾患
  - 中耳炎 ( B )
  - 急性・慢性副鼻腔炎
  - アレルギー性鼻炎 ( B )
  - 扁桃の急性・慢性炎症性疾患
  - 外耳道・鼻腔・咽喉・喉頭・食道の代表的な異物

( 1 6 ) 妊娠分娩と生殖器系疾患

妊娠分娩 ( 正常妊娠、流産、早産、正常分娩、産科出血、乳腺炎、産褥 )( B )

女性生殖器および関連疾患(月経異常(無月経を含む)、不正性器出血、更年期障害、外陰・膣・骨盤内感染症、骨盤内腫瘍、乳腺腫瘍)

男性生殖器疾患(前立腺疾患、勃起障害、精巣腫瘍)( B )

( 1 7 ) 小児疾患

小児けいれん性疾患( B )

小児ウィルス感染症(麻疹、流行性耳下腺炎、水痘、突発性発疹、インフルエンザ)( B )

小児細菌感染

小児喘息( B )

先天性心疾患

( 1 8 ) 加齢と老化

高齢者の栄養摂取障害( B )

老年症候群(誤嚥、転倒、失禁、じょくそう)( B )

< 必修項目 >

( A ) 疾患については入院患者を受け持ち、診断、検査、治療方針について症例のレポートを提出

( B ) :疾患については外来診療又は受け持ち入院患者(合併症を含む)で自ら経験する

( 外科症例 ) : 1 例以上受け持ち、診断、検査、術後管理等につき症例レポートを提出する

\* 全疾患( 8 8 項目 ) のうち 7 0 % 以上を経験することが望ましい

## C 特定の医療現場の経験

下記の項目の医療現場において到達目標項目のうち1つ以上を経験する事が求められる

### 1) 救急医療

生命や機能的予後に係わる緊急を要する病態や疾病、外傷に対して適切な対応ができる能力を養う

バイタルサインの把握ができる

重症度および緊急度の把握ができる

ショックの診断と治療ができる

二次救急処置(ACLS;Advanced Cardiovascular Life Support、呼吸・循環管理を含む)ができ、一次救命処置(BLS;Basic Life Support)の指導ができる

\* ACLSはバッグ・バルブ・マスク等を使う心肺蘇生法や除細動、気管挿管、薬剤投与などの一定のガイドラインに基づく救急処置を含み、BLSには気道確保、心臓マッサージ、人工呼吸等機器を使用しない処置が含まれる

頻度の高い救急疾患の初期治療ができる

専門医への適切なコンサルテーションができる

大災害時の救急医療体制を理解し、自己の役割を把握できる

### 2) 予防医療

予防医療の理念を理解し、地域や臨床の場での実践に参画する

生活指導;食事、運動、飲酒、禁煙指導、ストレスマネジメント

性感染症予防、家族計画指導への参画

地域、産業、学校保健事業に参画

予防接種への参画

### 3) 地域保健・医療

地域保健・医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応するために以下の施設の役割を理解し実践できる

保健所の役割(地域保健、健康増進)

社会福祉施設等の役割

診療所(病診連携)

#### 4) 周産・小児・成育医療

周産・小児・成育医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応するために以下の項目を理解し実践する

- 周産期や小児の各発達段階に応じた適切な医療の提供
- 周産期や小児の各発達段階に応じた心理社会的側面への配慮
- 虐待についての理解
- 学校、家庭、職場環境に配慮し、地域との連携に参画
- 母子健康手帳の理解と活用

#### 5) 精神保健・医療

精神保健・医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応するために以下の項目の習得に努める

- 精神症状の捉え方の基本
- 精神疾患の初期的対応と治療の実際
- デイケアなどの社会復帰や地域支援体制の理解

#### 6) 緩和・終末医療

緩和・終末医療を必要とする患者とその家族に対し全人的に対応するために以下の項目の習得に努める

- 心理社会的側面への配慮
  - 緩和ケア（WHO方式癌疼痛治療法を含む）への参加
  - 告知をめぐる諸問題への配慮
  - 死生観・宗教観などへの配慮
- < 必修項目 > 臨終の立会いを経験すること